

厚木市未来・図書館

管理運営方針

(案)



令和7年 月

厚木市 市民交流部 中央図書館

目 次

第1章 未来・図書館管理運営方針について

1	複合施設（庁舎機能、図書館機能、未来館機能等）整備の経過	1
2	施設の名称	2
3	方針策定の目的	2
4	方針の位置付け	2
5	方針の見直し	3

第2章 未来・図書館の基本理念と基本方針

1	基本理念	4
2	基本方針	5

第3章 未来・図書館のフロア（空間）の概要

1	フロアの特徴	6
2	フロア構成	7

第4章 各機能の特徴と提供サービス等

1	図書館機能	
(1)	蔵書の規模	16
(2)	収集方針	16
(3)	配架計画	17
(4)	提供サービス	18
2	未来館機能	
(1)	展示や各種プログラム	21
(2)	提供サービス	22
3	連携機能	
(1)	連携機能の役割	23
(2)	提供サービス	23

第5章 未来・図書館の管理運営

1	管理運営の基本的な考え方	24
2	管理運営体制	24
3	施設管理の基本的事項	
(1)	開館時間	25
(2)	利用時間	25
(3)	休館日	25
(4)	利用料金	25
(5)	館内の利用ルール	26
(6)	施設の維持管理	29
(7)	危機管理対応	29
4	図書館機能に関連する施設等の今後の方向性	30

第6章 成果指標及び評価検証

1	成果指標	31
2	評価検証	31

1 複合施設（庁舎機能、図書館機能、未来館機能等）整備の経過

本市では、昭和46年に市立厚木小学校の隣地に図書館を開館しました。その後、昭和60年に現在の厚木シティプラザに中央図書館と子ども科学館を開館し、市民の教育と文化の発展、創造性豊かな青少年の育成に取り組んできました。

しかしながら、開館から30年が経過し、多様化するニーズへの対応や蔵書スペース・展示ホールの狭あい化、閲覧席の不足等の課題から、平成26年12月に策定した中町第2-2地区周辺整備事業整備方針において、6つの整備方針の一つとして『未来の図書機能・科学機能を核とした複合施設の新設』を掲げました。

その後、平成29年に厚木市図書館基本構想及び（仮称）こども未来館^{※1}基本構想を策定し、新施設の基本理念や基本方針、施設規模等を位置付けました。さらに、平成30年9月に策定した「厚木市新庁舎整備基本構想」において、市庁舎、図書館及び（仮称）こども未来館等からなる複合施設を整備することとしました。^{※2}

この後、施設整備に向けた厚木市複合施設等整備基本計画を令和2年1月に策定し、基本設計、実施設計を進め、令和9年度中の供用開始を目指し、令和6年9月に複合施設建設工事に着工しました。また、複合施設が多くの皆様に誇りと愛着を感じていただける施設となるよう愛称を募集し、244点の応募の中から選考委員会で市民投票の対象とする5点を選定し、令和7年2月に愛称を「あつめき」と決定するとともに、ロゴマークを作成しました。



【愛称に込められた思い】

厚木の由来といわれるアツメギ、ときめき、メキメキ成長するという力強さの音、人を集める場所という意味を込めた言葉

【ロゴマークの説明】

■厚木の由来

メインのモチーフは、「集め木」をイメージした複数の木の断面。白抜きの形は「あ」をベースにデザインし、人によって見え方が違うことの面白さや多様な価値観を象徴。

■人が集まる場所

木の断面が寄り添うデザインは、多くの人が集う場所を象徴し、市庁舎、図書館・（仮称）未来館、消防本部、行政機関の5つの機能を持つ複合施設の特徴もイメージ。

■力強さ

メインカラーの赤紫色は、市の花「さつき」をベースに、大地にしっかりと根を張り、木を支える「根っこ」の色として、愛称に込められた「力強さ」を表現。

■ときめきと成長

市のシンボルカラーの黄緑色をベースにした星形のデザインは、愛称に込められた「ときめき」や「成長」を意味し、この施設を訪れる人の輝かしい未来を表現。

※1 （仮称）こども未来館については、厚木市複合施設等整備基本計画において（仮称）未来館として位置付けることとしました。以下「（仮称）未来館」と表記します。

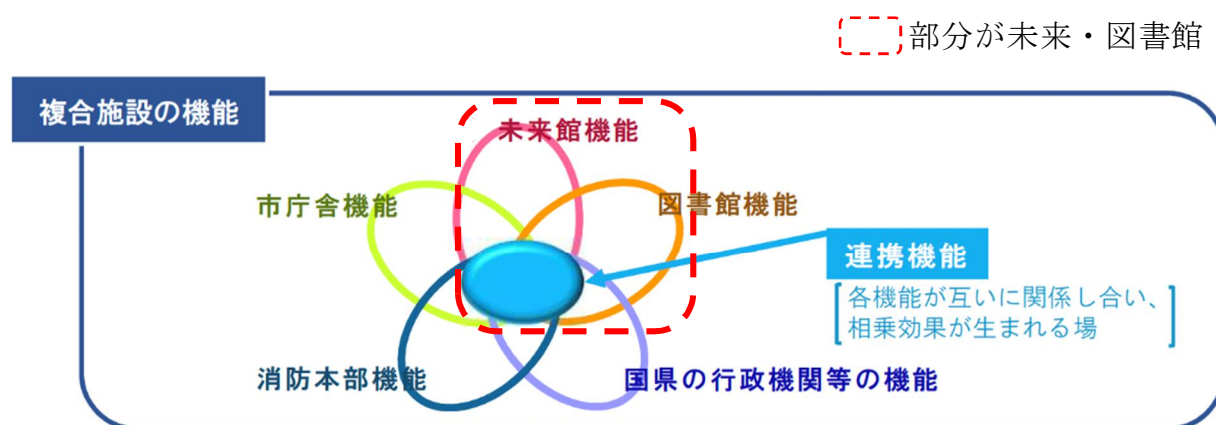
※2 令和2年厚木市議会第1回会議（2月定例会議）において、厚木市役所の移転先を厚木バスセンター東側の中町第2-2地区に定める厚木市役所位置設定条例の一部を改正する条例が可決されました。

2 施設の名称

複合施設は、図書館法に基づく公立図書館として位置付ける図書館機能と、こどもから大人まで幅広い人々が「ワンダー（好奇心や物事を不思議に思う気持ち）」を感じることができる場である未来館機能とが融合した新しいコンセプトの施設です。

これまで施設整備に当たっては、『未来の図書館機能・科学機能を核とした複合施設』の整備方針に基づき、図書館及び（仮称）未来館として個別に検討を行ってきましたが、利用者の利便性の向上、管理運営業務の効率化の観点から、供用開始後の管理運営については、図書館及び（仮称）未来館の機能が融合した施設として一体的に行うこととします。

市庁舎機能等とも密接に連携した新しい公共サービスの提供を通じて、市民の皆様それぞれが描く未来の創造につなげる施設とするために、図書館及び（仮称）未来館としてきた施設名称について、「未来」と「図書館」の間に「のための」「をつくる」「を考える」「を生きるための」など、一人一人が未来志向で様々な捉え方をしてもらいたい、という思いを込めた「・」を入れ「厚木市未来・図書館（以下「未来・図書館」という。）」とするものです。



3 方針策定の目的

複合施設の供用開始に当たり、未来・図書館の目指すべき姿（基本理念）と実現するための方針（基本方針）を始め、提供サービスや管理運営体制、開館時間などの運営条件等の方向性を示すため、未来・図書館管理運営方針（以下「本方針」という。）を策定するものです。

4 方針の位置付け

本方針は、図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成 24 年 12 月 19 日文部科学省告示第 172 号）で作成が求められている基本的運営方針として策定するものです。

なお、供用開始に伴う条例等の改正に当たっては、本方針に位置付ける内容を反映し、所要の手続を行うものとします。

5 方針の見直し

未来・図書館の管理運営に当たっては、本方針で定める成果指標の実現に向けた効果的な管理運営を行う必要があります。

このため、成果指標（開館から10年後までの目標値）の設定から、供用開始以降、5年ごとに見直しを行うものとします。

なお、社会環境の変化や市民ニーズに迅速に対応する必要があるときは、随時、見直しを行うものとします。

1 基本理念

令和2年1月に策定した厚木市複合施設等整備基本計画に掲げる複合施設全体の基本理念「いい日々、いい時間。」の実現に向けた未来・図書館としての基本理念について、図書館基本構想及び（仮称）未来館基本構想で定める基本理念、愛称「あつめき」に込められた思いも踏まえ次のとおり定めます。

複合施設全体の基本理念

いきいきと生きる日々、すてきな時間を過ごすことができる

サードプレイスを目指して

『いい日々、いい時間。』

実現

未来・図書館の基本理念

未来をつくる『わたしの居場所』

未来・図書館は、誰もが気軽に訪れ、ずっとここにいたい「わたしの居場所」と感じ、いい日々が続くように自分たちの未来を想像し、そのために何かしたいと考える時間が生まれるような滞在型施設を目指します。

なお、未来・図書館の特徴と目指す具体的な姿は、次のとおりです。

No.	特徴	目指す姿
1	市民の学び、成長、楽しみに役立つ情報拠点である図書館機能と、深く洞察し実践することで未来を生きる力を育てていくコミュニティプレイスである未来館機能との融合	一人一人の「見つける」「やってみる」「知る」「わかる」「探す」などの探究と、学びのための多様な活動がつながり合い、更なる促進につなげる施設
2	未来・図書館と市民の生活を支える行政事務を行う庁舎機能との複合化	地域で豊かな生活を送るための「自治」が常に身近に感じられ、共に力を合わせて地域をより良くしていく活動につながる、住民自治を推進するための施設
3	幅広い年代の多様な人々が集まり、新たな発見や興味、好奇心、知恵、経験を互いに共有するための様々な場の提供	「わたしのこと」「誰かのこと」が「わたしたちのこと」になっていき、共に生きるために協力し合う意識が生まれ、関係性が築かれていく施設

こうした具体的な姿を目指すことで、愛称にも込められた「多くの人々が集い、ときめき、メキメキ成長できる場所」として、未来・図書館が一人一人にとって、豊かな未来を創造できる居場所となることで、市民や地域にとって現在、そして未来が『いい日々、いい時間。』となるよう継続的に支援を行うことを基本理念としています。

2 基本方針

未来・図書館の基本理念を実現するための基本方針について、図書館基本構想、（仮称）未来館基本構想、厚木市複合施設等整備基本計画で掲げた複合施設全体の基本方針を踏まえ次のとおり定めます。

未来・図書館の基本方針

(1) 誰もが訪れやすく、きめ細やかなサービスを提供する施設

全ての市民にとって訪れやすい施設とするために、誰もが快適に過ごすことができ、気兼ねなく利用することができる場づくりを行います。また、全ての市民に対して、心を豊かにするための学び、文化、生涯学習との出会いを提供するとともに、市民の暮らしに関わる課題の解決に向けた支援を行います。

(2) 一人一人の居場所、気付きがある施設

幅広い世代、多様な人々が、日常利用できる公園のように気軽に過ごすことができる居場所となるよう、自発的な学びと好奇心を育み、文化的で豊かな生活を支えていくための場づくりを行います。

(3) 絶え間ない交流、活動が生まれる施設

人と本（情報）だけでなく、人と人、学校や企業、施設、市民団体などの地域の様々なものとつながり、交流や自発的な活動が生まれる場づくりを行います。

(4) こどもの学び、成長、楽しみに役立つ施設

未来を担う子どもたちが「本を選ぶ楽しさ」や「新たなことを知るよろこび」、「人に伝えるうれしさ」を得ることができる場づくりを行います。

(5) 地域の記憶を収集・保存・編集し、活用していく施設

人々の記憶を地域全体の貴重な記憶として共有していくための資料の収集や保存、提供などの活動を通して、地域の過去・現在・未来をつないでいき、地域の歴史・文化の学びの場や、将来変化へ柔軟に対応する活動の場づくりを行います。

(6) 中心市街地のシンボルとして誇りと愛着を感じることができる施設

施設を訪れる人や働く職員がいきいきと輝き、施設全体が希望と優しさに満ちあふれた活動の場となることで、まちのシンボルとしての誇りと愛着を感じられる雰囲気醸成します。

第3章 未来・図書館のフロア（空間）の概要

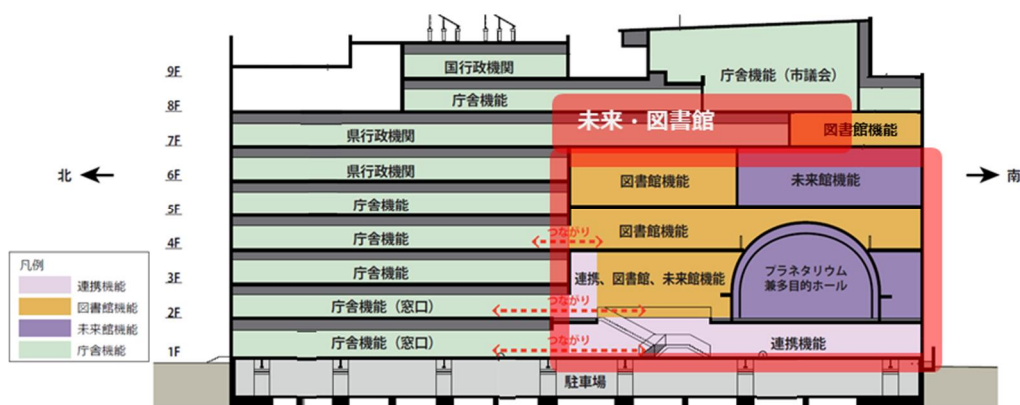
1 フロアの特徴

未来・図書館は、図書資料の閲覧・貸出や各種体験プログラムを提供するだけでなく、「居場所」として過ごすことができる滞在型施設、また、来館することで何かしらの「行動変容」を誘発するきっかけとなる施設を目指しています。

このことから、読書や学習、調べものなどができる閲覧席を充実するほか、図書資料の分類方法に慣れない人が、日常生活やライフイベントに関するワードから目的とする情報にたどり着くことができるコーナー（インデックス）や、行動変容の仕組みを学ぶことができるコーナー（デザインて何？コーナー）を配置します。また、星空などの鑑賞のほかミニコンサートなどの多目的にも利用することができるプラネタリウム兼多目的ホール（あつめきドーム）や、自身の興味関心から次の行動のきっかけにつなげる特徴的な展示なども設置します。

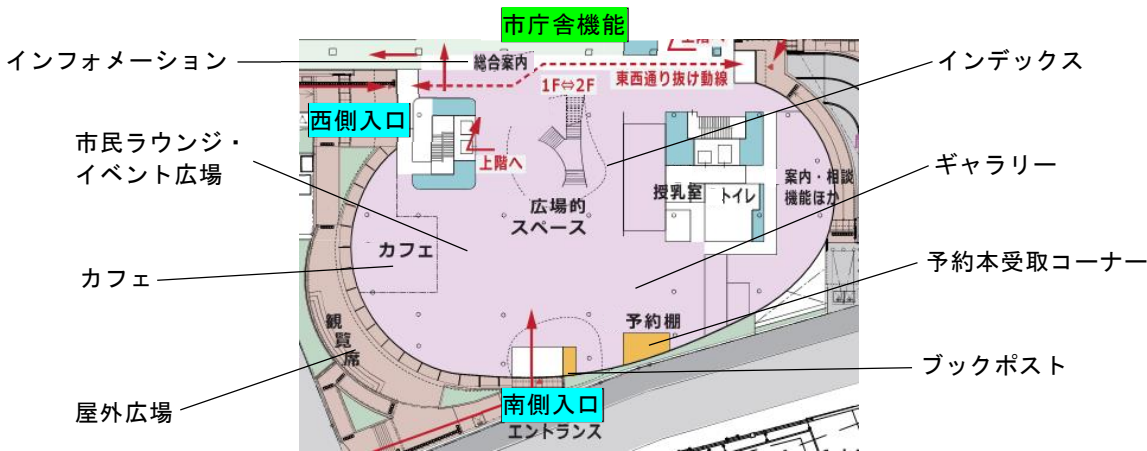
《フロアと主な機能》 ※諸室の名称については、今後、事業を進める中で変更する場合があります。

機能階	図書館機能	未来館機能	連携機能
9階		天体観望ルーム	
7階	閉架書庫		
5階	ミュージアムみたいな絵本コーナー、児童書エリア、キッズスペース、ホール、対面朗読室	あとわ広場、ミニ自然園、あとわラボ、工房	
4階	探究キャンパス、静かな部屋、一般書エリア、閲覧席、和田傳コーナー		
2階	ショーケース、デザインて何？コーナー、一般書エリア、閲覧席	あつめきドーム、ティーンズラウンジ	飲食スペース
1階	予約本受取コーナー、ブックポスト		インフォメーション（総合案内）、インデックス、ギャラリー、市民ラウンジ・イベント広場、カフェ、屋外広場



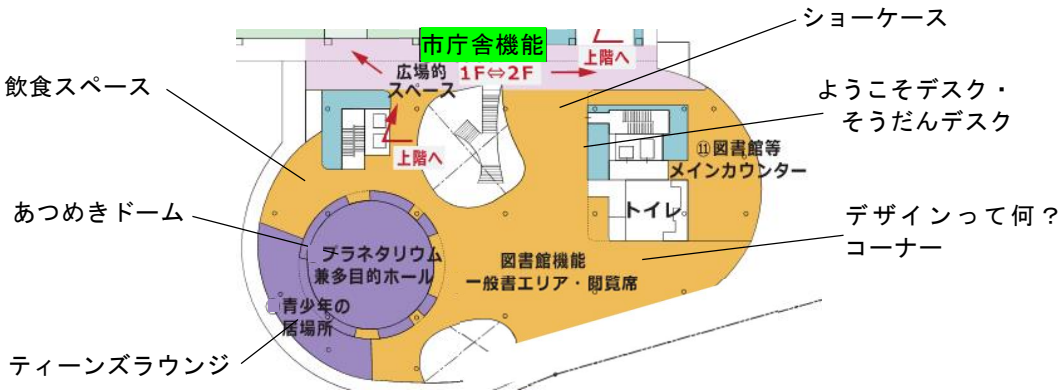
2 フロア構成

(1) 1階

フロアコンセプト	「土と根」交流のフロア ～種を育む土の中、未来をつくる芽吹きの間～
複合施設の入口として、未来の創造に向け最初の一步を踏み出すフロア。土の中をイメージした落ち着いた空間が、穏やかに来館者を迎えます。カフェでは香ばしいコーヒーの香りが漂い、市民ラウンジでは多様な人々が交流します。読書に没頭する人、語り合う人、それぞれの「種」が静かに芽吹く準備をしています。 市庁舎機能とシームレスにつながる、日常の延長線上にあるこの場所で、ここから知と交流の種が自然とこぼれていきます。	
 図は1階のフロア構成を示しています。中央には「広場的スペース」があり、その周囲には「カフェ」、「市民ラウンジ・イベント広場」、「観覧席」、「屋外広場」が配置されています。右側には「授乳室」、「トイレ」、「案内・相談機能ほか」があります。左側には「インフォメーション」があります。上部には「市庁舎機能」があり、「1F⇄2F 東西通り抜け動線」が示されています。下部には「南側入口 エントランス」があります。また、「西側入口」も示されています。右側には「インデックス」、「ギャラリー」、「予約本受取コーナー」、「ブックポスト」があります。また、「上階へ」の矢印も示されています。	
機能名称	機能概要
インフォメーション （総合案内）	・ 窓口や主要なサービス機能の案内、車椅子の貸出などに対応します。 ・ 自動貸出機で図書等をセルフサービスで借りることができます。 ・ 案内用タブレットから、目的とする窓口やイベントなどの情報を案内します。
インデックス	・ 全館のインデックス（目次）として、日常やライフイベントに関するワードに合わせ、本やチラシ、模型、商品などの資料を展示し、目的とする情報へのアクセスを支援します。 ・ 自身のスマートフォン等を用い、キーワードごとの2次元コード等を読み取ることで、目的とする情報にアクセスすることができます。

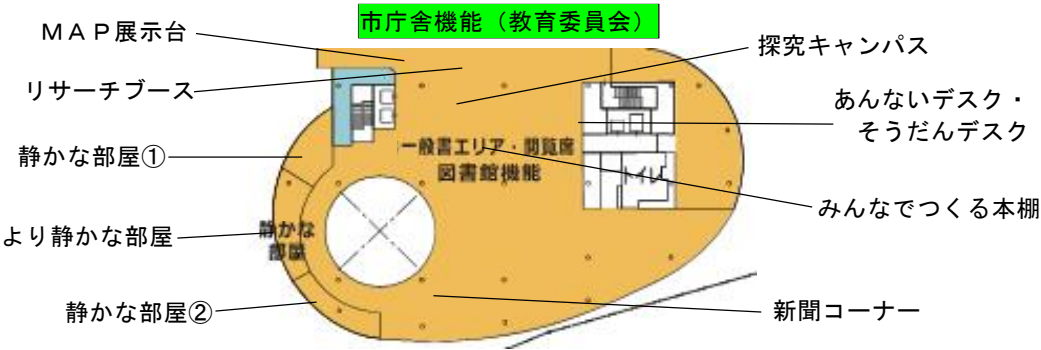
機能名称	機能概要
市民ラウンジ・イベント広場	・市庁舎機能開庁時は、目的に合わせて自由に過ごすことができる場所として開放します。大型ビジョンを設置し、未来・図書館の案内を始め、市政情報や施策のPR、あつぎ郷土博物館のイベントなどの情報発信を行います。 ・市庁舎機能閉庁時は、トークイベントやミニコンサートなどのイベントを開催するほか、市民交流の場とします。 ・災害時は、帰宅困難者用の一時滞在スペースとします。
屋外広場	・観覧席がある屋外広場で、建物南西部のドアを開口することにより屋内との一体利用もできます。 ・イベントを開催するほか、市民交流の場とします。
ギャラリー	庁内各課や他の公共施設との連携、関連機関、市内企業、市内大学、市民団体などと協働した企画展示を行うほか、ワークショップを開催します。
カフェ	軽食がとれるカフェスペースとして民間事業者が運営します。
予約本受取コーナー	予約棚と自動貸出機を配置することで、予約した図書等をセルフサービスで借りることができます。
ブックポスト	建物南側に返却用ブックポスト設置することで、閉館時も図書を返却することができます。24時間365日利用できます。

(2) 2階

フロアコンセプト	「空と枝」広がるフロア ～芽が出て空へ伸び、広がる学びと創造の場～
自然光が差し込む吹き抜けの大空間が、成長する若木のような希望を感じさせるフロア。1階からの階段を上ると開放的な空間が広がり、象徴的なあつめきドームがあり、物語や映像の世界へと誘います。ティーンズラウンジでは、若い世代が自由に集い、語り合う場として活気に満ちています。図書エリアには、アート、デザイン、スポーツなどに関連する図書、雑誌、文庫が並び、気軽に本に触れられる工夫がされています。 ここから人々の活動や青少年の育成など未来へ向かう芽が育まれます。  図説: 2階フロア計画図。中央には「あつめきドーム」があり、その周囲には「ティーンズラウンジ」、「プラネタリウム 兼多目的ホール」、「飲食スペース」、「広場的スペース」が配置されている。右側には「図書機能 一般書エリア・閲覧席」、「⑪ 図書館等 メインカウンター」、「トイレ」、「ようこそデスク・そうだんデスク」、「デザインって何? コーナー」、「ショーケース」がある。階段は「1F⇄2F」と表示されている。	
機能名称	機能概要
ようこそデスク	利用案内のほか、利用者登録やプラネタリウム年間パスポートの販売、CDや他館から借用した図書の貸出・返却などに対応します。
そうだんデスク	プライバシーに配慮した個別ブースで利用者からの質問や相談に対応します。
ショーケース	・外側からも見え、中に入ることもできる本の展示コーナーです。 ・定期的にテーマを変え、未来・図書館の企画展示を実施するほか、あつぎ郷土博物館や庁内各課、市内企業、市内大学等と連携した企画展示を実施します。
デザインって何? コーナー	・「デザイン」とは、目に見えるものだけではなく、行動変容を起こしていく仕組みや考え方のことです。 ・「人生を豊かにするためのデザインとは何か」をテーマとした企画展示を継続的に実施します。
一般書エリア	配架計画（17 ページ）参照

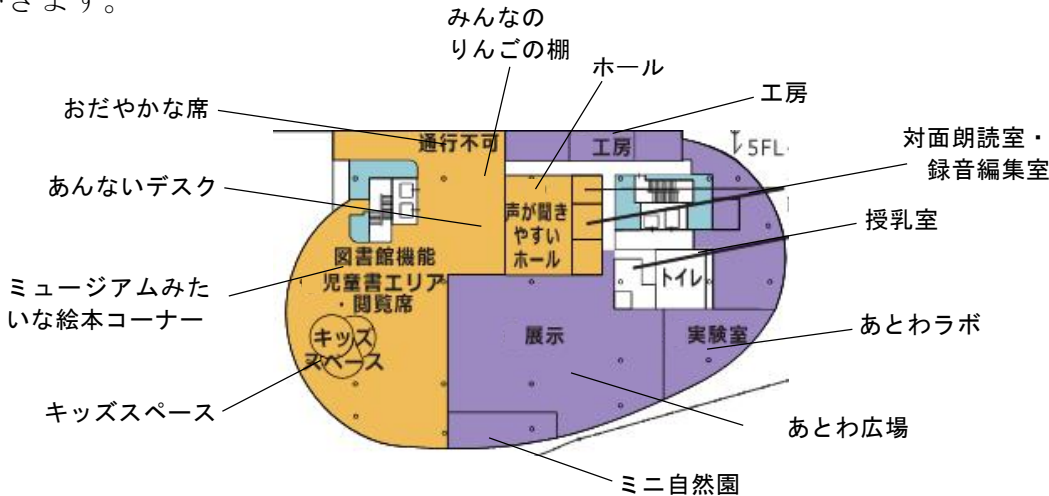
機能名称	機能概要
閲覧席	・ 事前予約でパソコン等の電子機器を利用するためのコンセントを設置したカウンター席を利用できます。 ・ その他のテーブル席等は自由に利用できます。
動く棚	可動式の展示台を使用したミニ企画展示を実施します。
検索・予約コーナー	蔵書検索機で本の検索や予約ができます。
飲食スペース	座席が 40 席程度のスペースで、弁当やカフェで提供する軽食を食べることができます。
ごみリサイクルコーナー	・ 飲食スペースで出たごみは持ち帰りを原則としますが、ごみの資源化に対する意識を高めるため、資源化できるペットボトルや缶などは回収します。 ・ ごみの減量化・資源化について考える展示も実施します。
あつめきドーム	・ プラネタリウム用の恒星投影機やプロジェクターを備え、宇宙やミクロの世界など、普段の生活では見られない様々な世界をバーチャルで体験できる直径 15m、閲覧席が車椅子用スペースを含め 96 席のドームです。 ・ こども向けから大人向けまで幅広いコンテンツを投影するほか、簡易ステージも備え、全天周映像プログラムを活用したミニコンサートや読書イベントなども開催します。
ティーンズラウンジ	中高生世代から求められている居場所を確保するため、40 人程度が利用できるスペースで、10 代を中心とした青少年同士が気軽に集い、交流し、様々な活動ができる場とします。

(3) 4 階

フロアコンセプト	「森と幹」本のフロア ～森のように深く知を蓄える探究の場・静寂の空間～
木々が生き茂る森のように、幅広い分野の資料を集めたフロア。幹のように整然と並ぶ書架は、森の奥へと踏み込むような探究心をかきたてます。まるで森の中にいるかのように、ゆっくりと読書に没頭できる「静かな部屋」。知を深め、新たな発見へとつながる対話が生まれる「探究キャンパス」。「みんなでつくる本棚」では、人と本をつなげ、感動を共有する喜びが生まれます。 静かに本を読む人、思索にふける人、議論を交わす人、それぞれが「知の森」を豊かにしていきます。 	
機能名称	機能概要
あんない デスク	4 階フロアの利用案内を行うほか、資料の複写や商用データベース利用の受付などを行います。
そうだん デスク	プライバシーに配慮した個別ブースで利用者からの質問や相談に対応します。
探究 キャンパス	- 何かを調べたいが、調べ方がわからない利用者のために、情報を探す際の道案内となるパスファインダーを設置し、主体的・対話的に学び続ける「探究の旅」を促す場とします。 - 未来を探究することができるテーマを設定し、空間を囲むように様々な分類の関連図書を横断的に配架します。
リサーチ ブース	- 過去の新聞記事、雑誌記事、論文などを検索することができる商用データベースが利用できます。 - 判例、法令、官報などの法情報の検索、国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」が利用できます。
MAP 展示台	紙地図のほか、テーマに応じ触知図、立体模型、プロジェクションマップ等を活用し、テーマに関する情報を「地図・マップ」に重ね合わせて展示します。

機能名称	機能概要
みんなで つくる本棚	利用者自身がお気に入りの本や人にお勧めしたい本を配架することで、利用者同士での本の共有を通じ、新たな興味や知識の共有につなげていく場とします。
静かな部屋	座席が 20 席程度の部屋で、静かに読書や自習をしたい方が利用できます。（2 部屋）
より静かな 部屋	座席が 30 席程度の部屋で、読書や資料の閲覧に集中したい方が利用できます。
一般書エリア	配架計画（17 ページ）参照
閲覧席	・ 事前予約でパソコン等の電子機器を利用するためのコンセントを設置したカウンター席を利用できます。 ・ その他のテーブル席等は自由に利用できます。
地域資料 コーナー	・ 厚木市や近隣自治体、神奈川県 of 資料を閲覧できます。 ・ 厚木市の観光やまちの変遷など企画展示を実施します。
和田傳 コーナー	・ 明治 33 年に厚木市で生まれ、農民文学の分野で活躍した作家であり厚木市初の名誉市民・和田傳氏を紹介します。 ・ 作品の舞台となった厚木の農村風景の展示等を実施します。
新聞コーナー	・ 一般紙や機関誌などの新聞を閲覧できます。 ・ 過去 1 年分の新聞縮刷版（読売、朝日、毎日、神奈川新聞）を閲覧できます。
動く棚	可動式の展示台を使用したミニ企画展示を実施します。
資料複写 コーナー	有料コピー機を利用できます。
携帯電話 利用コーナー	携帯電話の一時的な通話ができます。

(4) 5階

フロアコンセプト	「風と葉っぱ」わくわくのフロア ～風が吹き抜け、自由に巡る発想と創造が舞う場～
風が吹き抜け、軽やかに遊ぶ葉のように、自由な発想を広げるフロア。図書エリアと展示エリアの境界はなく、こどもも大人も好奇心のままに自由に歩き回りながら、新たな世界と出会えます。絵本の世界に飛び込んだり、実験や工作を楽しんだり、展示装置の体験などを通じて、自分の中の「あ！」という気付き・驚きから（to）、新たな興味関心「わくわく（わ）」に出会う（あ！toわ・あとわ）ことで、豊かな未来の創造につながります。 ここでは、知の探求だけでなく、新たな発見やアイデア、創造の風が吹き抜けていきます。 	
名称	概要
あんないデスク	5階フロアの利用案内を行うほか、読書バリアフリーサービスの受付などを行います。
縁日コーナー	縁日のような遊びを通じて、偶発的な本との出会いを創出します。
ミュージアムみたいな絵本コーナー	絵本の表紙を見せる並べ方をするすることで、背表紙の字が読めないこどもたちも直感的に本を手にとることができ、大人にとっても絵本独特の世界を楽しめるミュージアムみたいな空間で、本を選ぶ楽しさを感じることができます。
児童書エリア	配架計画（17 ページ）参照
キッズスペース	親子で本を楽しめるほか、絵本や紙芝居の読み聞かせ（おはなし会）、乳幼児向けイベントを実施します。
おだやかな席	児童向けの小説などの読書をゆっくりと楽しむことができます。

機能名称	機能概要
ホール	・椅子席で 100 席、読み手がマイクを使わなくても、声が明瞭に聞こえ、言葉の響きの美しさがきちんと伝わる音響特性や防音性能をもったホールで、朗読会や読み聞かせ（おはなし会）を実施します。 ・その他、講演会や映画上映会、ミニコンサートなどでも利用します。
みんなの りんごの棚	読むことが難しい方にも読みやすいように、写真や絵、短い言葉で構成されたＬＬブック、布絵本、点字本、録音図書、マルチメディアデイジー（文字・画像・音声を同時に再生できる電子書籍）等の読書バリアフリーに対応した資料を閲覧・利用できます。
対面朗読室	本を読むことが難しい利用者が、音訳ボランティアと対面で、希望する資料を直接読んでもらうために利用できるほか、プレクストーク（視覚障がい者向けの音声読み上げ機能付き図書再生端末）やマルチメディアデイジー（文字・画像・音声を同時に再生できる電子書籍）などを利用して、自ら読書ができます。
録音編集室	職員やボランティアスタッフが、音訳版図書館だよりなどの作成やホールで行う講演の録音を行います。
あとわ広場	・感性や記憶を刺激するような 5 つのコンテンツで構成する展示装置を自由に利用できます。 ①気づきや新たな興味関心が、“わくわく”につながる過程を視覚的に表現したボールコースター ②日常の中に潜む様々な“わくわく”（＝誰かが楽しんでいるモノやコト）を追体験することができる展示や、厚木ならではのモノやコト（自然、歴史・文化、産業等）の展示 ③1960 年代頃から現代までの流行したアイテムの展示 ④五感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚）を使って楽しむ様々なゲーム感覚の体験装置 ⑤展示や体験を通して、意図していなかった本や活動などを情報提供
ミニ自然園	様々な植物や昆虫、水辺の生物などの飼育や観察ができるほか、育てた植物を使ったワークショップ等を開催します。
あとわラボ	40 人程度が利用できる実験器具等を備えた部屋で、実験イベントなどを実施します。
工房	電動丸鋸盤やボール盤等アナログ工作機器等を揃えた部屋、3 D プリンター等パソコンで操作するデジタル工作機器を揃えた部屋で、様々な機材を使用して、ものづくりができます。

(5) 9階

名称	概要
天体観望 ルーム	10 人程度が利用できる、高精度の天体望遠鏡や太陽望遠鏡を 備えた部屋で、天体観望会などを実施します。

1 図書館機能

(1) 蔵書の規模

図書館の書架の管理方式には、利用者が書架から自由に図書資料を手に取り閲覧できる「開架」と、利用者が自由に書架にアクセスできない「閉架」があります。

図書館機能の収納可能冊数は、施設整備に当たって策定した厚木市複合施設等整備基本計画において、開架は約20万冊、閉架を約40万冊としています。

このことを前提に、供用開始時点の蔵書規模については、開架については、資料の検索性などの観点から、収納可能な約20万冊の80%程度（約16万冊）とします。また、閉架については、将来的な増冊を想定し、収納可能な約40万冊の90%程度（約36万冊）とします。

《蔵書規模》

未来・図書館 約520,000冊 (供用開始時点)	【参考】中央図書館 約505,000冊 (令和7年4月1日現在)
------------------------------	-------------------------------------

※移動図書館、公民館図書室所蔵分は除く。

(2) 収集方針

図書資料については、図書館法に基づく公立図書館として、利用者や住民の要望、社会の要請、地域の実情に十分留意し、市民の学習、教養、調査研究、趣味、レクリエーション等に役立つ資料を次の方針に基づき収集します。

ア 国内出版物を中心に、総合的かつ体系的な資料構成に努め、各分野の調査、研究の基礎となる資料、入門書を主として収集するものとします。また、専門性の高い資料については、神奈川県立図書館、神奈川県立川崎図書館、市内大学図書館、近隣の図書館等に留意して判断するものとします。

イ 最新の情報を提供できるように、改訂版及び増補版の出版に留意するものとします。

ウ 思想、信条、宗教、政治的立場について、公平に扱うものとします。多様な意見や対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を幅広く収集するものとします。

エ 個人、組織、団体からの圧力・干渉によって、収集の自由を放棄したり、紛糾を恐れて自己規制したりしないこととします。

オ 収集する資料の種類については、図書、逐次刊行物、地域資料、視聴覚資料等、様々な形態の資料を収集するものとします。

カ オンライン・ネットワークで結ばれている各公民館図書室の蔵書構成にも留意し、体系的でバランスの取れた収集に努めるものとします。

キ 未来館機能の展示、講座、活動の補強・支援を行う資料や、更なる理解を深め、知識を得ることのできる資料を収集するものとします。

(3) 配架計画

未来・図書館では、図書館になじみがない方でも、目的の資料にたどり着けるように工夫した書架の配置や案内表示を行います。また、配架は日本十進分類法※による分類を基本としつつ、企画展示に合わせて関連の深い分類を近くに配架するなど、好奇心や興味を深めることができるよう工夫します。

なお、各フロアの配架計画は次のとおりです。

※ 日本十進分類法（Nippon Decimal Classification: NDC）とは、日本で使われている図書分類法です。図書の主題となる、あらゆる知識を1～9の数字を用いて分類し、どの区分にも属さない全般的なものには0を用いる分類法です。そしてさらに、0～9に分けるという繰り返しで分類を細分化していきます。

階	配架計画	配架冊数
1 階	全館のインデックス（目次）として、ライフイベントや日常生活をテーマに、関連する図書や機関（公共機関・ボランティア団体など）を紹介します。	
2 階	人気のある雑誌や文庫、新書、本に興味がない方にも手にとりやすい美術、音楽、スポーツの分野の本、写真集、マンガ、CDを配架します。	約 35,000 冊
4 階	文学や小説を始め、教育、福祉、料理、園芸、インテリアなど生活に関わる分野の本や、歴史、ビジネス、法律、科学、医療などの調べものに役立つ資料を配架します。さらに、主要新聞や厚木市に関する地域資料も配架します。	約 96,000 冊
5 階	絵本やこども向けの本のほか、親子での利用も想定し、子育て関連の本も配架します。未来館機能と連携した展示や読書バリアフリー資料も配架します。	約 31,000 冊

(4) 提供サービス

※**新**→供用開始に当たり、新たに導入するサービス

項目	サービスの概要
ア 本の貸出、 予約、リクエスト サービス	・本の貸出しを行います。また、貸出中などでその場で本を提供できない場合は、本の予約を受け付けます。 ・所蔵していない場合には、購入や他図書館からの借用により提供します。
イ 電子図書館	・スマートフォン等で、時間や場所を問わず検索・閲覧・貸出・返却が可能な電子図書館サービスです。 ・来館が困難な方も利用することができ、音声読み上げや、文字拡大の機能も備えています。 ・利用者ニーズを踏まえ電子書籍を充実します。
ウ 資料複写サービス	・図書館所蔵資料の複写サービスです。 ・国会図書館等への複写依頼も行います。
エ レファレンス (調査・相談) サービス	・利用者の知りたいことや探したいことについて、図書館の職員が図書館資料や情報検索サービス等を活用して調べものの支援を行うサービスです。
オ 視聴覚サービス	・CDなどの貸出しサービスです。
カ 児童サービス	・ミュージアムみたいな絵本コーナーや親子で一緒に読書を楽しめるキッズスペースを設置し、こどもたちが自ら本を探し、選び、本の楽しさに出会う機会を提供します。
キ 他図書館との連携 (相互協力)	・所蔵していない本を、他図書館等とお互いに貸し借りして利用者へ提供します。
ク 大学図書館との 相互利用	・市内5大学（神奈川工科大学、松蔭大学、湘北短期大学、東京工芸大学、東京農業大学）の図書館の専門書などを閲覧できます。 ・学生や教職員は、大学図書館を通じて市図書館の資料の貸出し等ができます。
ケ データベース及び デジタル化資料の 提供	・商用データベースの検索が行えます。 ・国立国会図書館のデジタル化資料、官報等を閲覧・複写することができます。

項目	サービスの概要
コ 団体サービス	・学校、保育所、幼稚園等の施設団体や育児サークルなどの任意団体への各種資料（本、雑誌、パネルシアター、エプロンシアター、布の絵本等）の貸出サービスです。 ・小・中学校からの来館、県央地区の県立高校生インターシップに対する、施設見学や図書館業務についての説明、職場体験学習等を実施します。 ・市内小学校に出向き、素話、絵本、紙芝居、ペープサート（紙人形劇）等を組み合わせた出前おはなし会を児童の学年に応じて実施します。
サ 結ぶプロジェクト	・学校図書室を通じて貸出しを行う市立中学校予約図書貸出サービスです。 ・読書のきっかけをつくるため、市立中学校生徒へ図書館カードを交付します。
シ 企画書架展示	・季節や時事の話題に応じたテーマの展示を実施します。 ・庁内各部署と連携し、市の取組やイベントなども紹介します。
ス 広域利用	・県央地区8市1町1村（厚木市、相模原市、秦野市、大和市、伊勢原市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村）の在住者が、地区内の図書館で所蔵する図書・雑誌などを借りることができる広域の貸出サービスです。 ・平塚市在住者が、厚木市との相互利用ができる貸出サービスです。
セ 読書バリアフリーサービス	・本を読むことに困難を感じる方の読書を支援するため、対面朗読及び録音図書・点字図書・CDの郵送貸出、墨字図書（インクで印刷された本）の郵送貸出、布の絵本やマルチメディアデイジーの貸出サービスです。 ・5階には「みんなのりんごの棚」を設置し、点字付き絵本やLLブックなど支援が必要な方の資料を配架します。 ・今後、リモートによる対面朗読の実施や宅配サービスの導入（有料）と利用資格について検討を行います。

項目	サービスの概要
ソ 外国語図書の貸出	・ 民族や言語、文化等に多様性を持つ利用者へ、日本や地域を知るための図書、日常生活に役立つ図書、日本語を学ぶための図書の貸出を行います。 ・ こどもが様々な言語に触れることができるよう、各国の言語で書かれた絵本や日本で翻訳本が出版されている原書、原作が日本語で外国語に翻訳された児童書等の貸出を行います。
タ ブックスタート	・ 幼いころからの読書習慣や絵本を通じた親子の触れ合いを深める重要性を周知するため、0歳児と保護者を対象として、読み聞かせの方法や年齢に応じた絵本の紹介、絵本のプレゼントを実施します。
チ 読書イベントの開催	・ こどもたちの読書へのきっかけづくりとする、おはなし会、映画会、人形劇、本の通帳（こどもに配布している読んだ本を記録する冊子）の配布等のほか、家族や友人と一緒に参加できる図書館クイズラリー（解答のヒントとして図書や厚木市の紹介を行いながらクイズに答えてもらい、図書館内をめぐる。）やこども読書マラソン（本の通帳への10冊記入ごとに60冊まで、6種類の景品を配布）等のイベントを実施します。 ・ 未来館機能と連携したイベントや大人向けの読書イベントも実施します。
ツ ボランティアとの協働	・ 読書ボランティアとの協働によるイベントを開催します。 ・ 読書ボランティアの活動を支援するほか、ボランティアの育成やスキルアップに向けた講座を実施します。
テ 図書リサイクル	・ 利用者から不要になった図書を図書館へ譲渡していただき、図書館で蔵書として活用します。 ・ 蔵書としない本は、他の公共施設へ譲渡するほか、図書館で不要となった除籍本とともに利用者に提供します。 ・ 図書館の除籍図書の一部を小・中学校に譲渡することで、小・中学校の読書環境（学校図書室、学級文庫）の整備を支援します。

項目	サービスの概要
① ト ICタグの導入	正確な資料管理により利用者の求める資料を迅速に提供するとともに、貸出返却の待ち時間や蔵書点検の際の閉館期間の短縮を図るためにICタグを導入します。
① ナ 自動貸出機、 自動返却機、 予約本受取 コーナーの設置	・利用者の利便性を高めるため、自動貸出機、自動返却機及び予約本受取コーナーを設置します。 ・利用者自身が手続を行えることにより、プライバシーを確保します。
① ニ ブックポストの 増設	現在の中央図書館に比べ、本厚木駅からの距離がやや離れた立地になることから、利用者の利便性を高めるため、本厚木駅周辺にブックポストを設置します。
① ヌ 座席予約システム の導入	・一部を除き、閲覧席の利用を予約制とします。 ・利用者自身で座席予約や空き状況を確認することができ、スムーズに座席を確保することができるよう座席予約システムを導入します。 ・座席利用は時間制とし、長時間待つことなく快適な利用を提供します。
① ネ パスファインダー の作成	・パスファインダーとは、何かを調べたいが、調べ方がわからない利用者のために、情報を探す際の道案内となるものです。 ・利用者が自ら資料を選び、調べることができるよう、パスファインダーを作成します。
① ノ 地域資料の 電子アーカイブ化	地域資料を広く提供するため、資料をデジタル化し、電子図書館での提供を推進します。

2 未来館機能

(1) 展示や各種プログラム

これまで子ども科学館では、主にこどもを対象に科学分野のプログラムを行っていましたが、未来・図書館では、こどもから大人まで幅広い人々が「ワンダー（好奇心や物事を不思議に思う気持ち）」を感じることができる場となるよう、展示や各種プログラムを展開します。

来館者一人一人の興味関心の世界を広げるため、未来館機能での体験活動に合わせて、おすすめの図書、イベント、活動団体等を紹介し、次の行動へつなげていく支援や、図書で学んだことを実際にやってみる場を提供するなど、一体型施設としての特徴をいかしたサービスを提供します。

(2) 提供サービス

項目	サービスの概要
ア 展示（常設展示）	各種展示物の設置や定期的な更新を行い、来館者が「ワンダー」を感じることができる場を提供します。
イ あつめきドーム	プラネタリウム番組の一般投影、幼児投影、学習投影、特別投影において様々なニーズに対応した投影を行うほか、多目的利用（貸切利用）の対応や一般開放も実施します。
ウ サイエンスショー	1階のイベント広場や5階のあとわラボにおいて、定期的に科学実験教室等を実施します。
エ 実験・工作教室	おもしろ実験、土曜科学実験、科学工作教室、ミニ工作教室、かんたん工作コーナー等の参加型体験事業を実施します。
オ 天体観望会	定期的な星空や太陽等の惑星の観望会のほか、日食や彗星などの天文現象に合わせた観望会を実施します。
カ アウトリーチ	学校や公民館等において、実験や工作などの出張講座を実施します。
⑨ キ ものづくり支援	利用者の自由なものづくりの可能性を広げるための支援として、工房において、ものづくり系ワークショップや、工房内各種機器の操作支援・講習会などを実施します。
⑩ ク ワンダーキットの貸出	利用者が館外で使用するためのフィールドワーク用の機器（顕微鏡、カメラ等）の貸出を行います。
⑪ ケ ティーンズラウンジの管理運営	10代の青少年の居場所とするティーンズラウンジの安全管理を行うほか、青少年が企画する講座の開催支援や青少年のニーズに合わせたワークショップなどを実施します。
⑫ コ ボランティアスタッフの育成	館内で活動するボランティアスタッフ（ワンダーコミュニケーター）の育成や、ボランティアスタッフ企画の講座の運営支援を行います。
⑬ サ 企画展示・連携展示	図書館機能との連携展示、庁内関係各課との連携による企画展示、産学連携展示などを実施します。

3 連携機能

(1) 連携機能の役割

複合施設 1 階の連携機能は、多種多様な目的を持って訪れる幅広い世代の利用者の利便性の向上を図るとともに、複合施設の各機能がそれぞれの役割を円滑に発揮することができるよう、案内、情報収集、情報発信を総合的に統括する役割を担います。また、市民交流の場の提供や市民活動に関する情報発信の充実を図ることにより、新たな協働の誘発や恒常的なにぎわいを創出します。

(2) 提供サービス

項目	サービスの概要
ア インデックス	・インデックスワードの選定や情報収集、更新を継続的に行い、目的に即した情報を提供します。 ・アクセス情報を集積し、統計データとして市民ニーズを捉える試みも実施します。
イ 市民ラウンジ運営	・市民の憩い、交流の場等として市民ラウンジ（イベント広場、ギャラリー）を運営します。
ウ 各種情報発信	・大型ビジョンや電子ペーパー掲示板を使って、お勧め本や企画展示の紹介、館内スケジュール案内はもとより、庁内の各種お知らせや観光情報等の情報発信を行います。 ・情報を電子ペーパー掲示板で一元的に管理・発信することで従来の紙の掲示物を減らし、ペーパーレス化の推進及び館内の美観の維持向上を図ります。
エ カフェサービス	・飲食しながら語り合ったり、読書をして過ごすなど多様な居場所の一つとして、民間事業者が運営するカフェサービスを展開します。 ・民間の専門事業者による運営とし、カフェ内での市内の大学や企業と連携したイベントの実施などを検討します。

1 管理運営の基本的な考え方

未来・図書館の管理運営については、基本理念の実現に向けた効果的・効率的な管理運営を行うため、図書館機能、未来館機能、連携機能を一体的に行うこととします。

運営に関しては、多くの方に親しまれ、利用される場となるよう、多様なプログラムや展示を展開します。企画に当たっては、集客のみを目的とせず、現施設が培ってきた理念やノウハウを継承しながら、基本理念を実現するための取組を検討します。また、公益社団法人日本図書館協会が作成している「図書館における障害を理由とする差別の解消の推進に関するガイドライン」に基づき対応します。

管理に関しては、利用者が快適に過ごすことができる利用ルールとするとともに、利用者ニーズに合わせた質の高いサービスの提供に努めます。

なお、本方針で定める利用ルールや提供サービスは、利用者のニーズや管理運営の効率化を踏まえ、柔軟に見直しを行います。

2 管理運営体制

現図書館については、窓口等業務委託の活用により市が運営しており、子ども科学館についても、職員（会計年度任用職員を含む。）により市が運営しています。

未来・図書館の管理運営については、供用開始の段階では、市が主体的に運営に関わり、基本理念を実現するための取組の方向性を示す必要があることから、供用開始から当面の間は業務委託を活用しながら市が行うこととします。

ただし、市が示している「厚木市委託化等導入に関するガイドライン」に基づき、民間活力の活用手法として業務委託と指定管理者制度について比較検討を行ったところ、コストや柔軟な運営の可能性などの面で指定管理者制度の方がメリットがあるという結果になったことから、将来的には指定管理者制度を導入することとし、指定管理者に要求する業務水準や評価方法、導入時期等については一定の管理運営実績を踏まえながら検討を続けるものとします。

3 施設管理の基本的事項

(1) 開館時間

開館時間については、厚木市複合施設等整備基本計画に基づき、市庁舎の開庁時間や市民サービス向上の視点での検討を踏まえ、次のとおりとします。

ア 月曜日から土曜日まで	8：30～21：00
イ 日曜日及び祝日	9：00～21：00

(2) 利用時間

利用時間については、各機能の利用者層やニーズを踏まえ、次のとおりとします。また、自動貸出機・返却機を導入するため、利用時間内における窓口対応については、供用開始後の利用状況を踏まえ検討を行います。

階	利用時間	開館時間
1 階	ア 月曜日から土曜日まで 8:30～21:00 イ 日曜日及び祝日 9:00～21:00	ア 月曜日から土曜日まで 8:30～21:00 イ 日曜日及び祝日 9:00～21:00
2 階	ア 月曜日から土曜日まで 9:00～21:00	
4 階	イ 日曜日及び祝日 9:00～21:00	
5 階	ア 月曜日から土曜日まで 9:00～19:00 イ 日曜日及び祝日 9:00～19:00	
9 階 (屋上)	ア 月曜日から土曜日まで 9:00～21:00 イ 日曜日及び祝日 9:00～21:00	

※1 階カフェの運営時間は、運営事業者決定後に決定します。

(3) 休館日

公共施設として安定したサービスを提供するため、図書資料の整理のほか、エレベーター等の設備やあつめきドーム、業務システムなどの保守点検などが必要となります。このことを踏まえ、休館日を次のとおり設定します。

ア 年末年始（12月29日～1月3日）
イ 蔵書点検を行うための特別整理期間（年1回・1週間程度）
ウ 施設保守点検日等（月1日程度）

(4) 利用料金

あつめきドームにおける番組投影の観覧、あつめきドームの貸切利用、工房の専用利用、天体観望ルームの貸切利用、市民ラウンジ（イベント広場）の団体利用は有料とします。

なお、利用料金については、市が示している「受益者負担見直しに関する基本方針（公の施設の使用料編）」における考え方を原則に、利用促進（利用しやすい料金設定）の視点や他市類似施設の料金も参考に設定します。

(5) 館内の利用ルール

ア 館内共通の利用ルール

項目	利用ルール
(ア) 会話	4階静かな部屋及びより静かな部屋を除く全てのエリアで可能とします。
(イ) 飲食	・1階市民ラウンジ、2階飲食スペース、ティーンズラウンジで可能とします。 ・閲覧席は、フタ付きの飲み物（ペットボトル・水筒等含む）のみ可能とします。 ・ごみは、持ち帰りを原則としますが、資源化ができるペットボトルや缶などは、2階ごみリサイクルコーナーで回収します。
(ウ) 閲覧席	・カウンター席の利用は予約制とし、予約手続を必要とします。また、カウンター席にあるコンセントは、パソコンやタブレットなどの電子機器で使用できます。 ・その他の席は、自由に利用できます。
(エ) パソコンの利用	4階より静かな部屋を除く全てのエリアで利用できます。ただし、音声が出るコンテンツはイヤホン等の使用を必須とします。（フリーWi-Fiを整備）
(オ) タブレットの利用	全てのエリアで利用できます。ただし、音声が出るコンテンツはイヤホン等の使用を必須とします。（フリーWi-Fiを整備）
(カ) 携帯電話での通話	1階は全てのエリア、2階・5階はエレベーターホール、4階は携帯電話利用コーナーで通話ができます。
(キ) その他	電卓などのタッチ音の出る機器は、4階フロア以外で利用できます。

イ 各諸室の利用ルール

階	諸室	利用ルール
1階	(ア) 市民ラウンジ ・イベント広場、 屋外広場	・原則、市が主催又は共催する事業での利用とします。 ・利用していない時間帯については、市民団体等による利用も可能とします。利用に当たっては、予約制とし、施設管理者との事前打合せを必要とします。利用料は有料とし、営利行為が伴う使用に当たっては、利用料を加算します。
2階	(イ) あつめき ドーム	・番組投影の観覧は有料とします。また、大人向けプログラム（コンサート等）については、出演料等の経費を反映した料金を設定します。 ・団体利用や障がい者等の減免規定を設けます。 ・番組投影がない時間帯は、個人又は団体による貸切利用ができます。利用料は有料とします。なお、営利行為を伴う利用は、利用料を加算します。 ・番組投影等がない時間帯は、一般開放（出入り自由）し、市政情報や施策などの情報発信を行います。
	(ウ) ティーンズ ラウンジ	・中学1年生～19歳（満20歳になる年の年度末まで）までの青少年の専用利用とします。（利用料は無料） ・青少年が気軽に立ち寄ることができる場とするため、利用時間中の出入りを自由とし、飲食についても可能とします。
4階	(エ) 静かな部屋、 より静かな 部屋	・利用に当たっては、予約制とします。 ・パソコンやタブレット等の使用は可能としますが、会話と電卓の使用は不可とします。
5階	(オ) ホール	・原則、市が主催する講座や研修等で利用します。 ・利用していない時間帯については、申込制によりグループ学習席として利用できます。
	(カ) 対面朗読室	読書バリアフリーサービスの利用登録をしている方がのみが申込制により利用できます。
	(キ) あとわ広場 ミニ自然園	・利用時間中の出入りは自由とし、入場料は無料とします。 ・安全管理上、小学3年生以下の入場に当たっては、保護者同伴を原則とします。

階	諸室	利用ルール
5 階	(ク) あとわラボ	・市が主催する講座やワークショップ等で利用します。 ・利用していない時間帯については、一般開放（小学校3年生以下は保護者同伴）し、器具の使用も可能としますが、顕微鏡など指定する器具の使用は、使用申請を必要とします。利用料は無料とします。 ・手軽に楽しめる工作キットの販売を行います。
	(ケ) 工房	・市が主催する工作教室等で利用します。 ・利用していない時間帯については、事前に操作研修を受講し利用登録された方が利用できます。 ・利用に当たっては、予約制とし、利用料は有料とします。 ・利用登録には、次のとおり年齢制限及び利用制限を設定します。 ①アナログ工房 電動丸鋸盤等操作に細心の注意を払う必要のある機器を取り扱うことから、利用登録できる年齢は16歳以上とします。また、機器の利用に当たっては、原則、スタッフの立ち合いとします。 ②デジタル工房 利用登録できるのは中学生以上とします。
9 階	(コ) 天体観望ルーム	・市が主催する星や星空、夜空などを見て楽しむイベント等で利用します。 ・利用していない時間帯は、個人又は10人以下の団体による貸切利用ができます。貸切利用については、予約制とし、利用料は有料とします。

(6) 施設の維持管理

清掃や警備、エレベーター等の設備の保守業務については、庁舎側と連携し効率的に実施します。

なお、あつめきドームの投影機等の特殊機器については、専門業者による保守点検が必要なことから個別業務とします。また、施設の維持管理に当たっては、図書資料の充実に係る経費が継続的に必要となることや、定期的に特殊機器や展示物の更新等に係る経費が必要となってきます。こうしたことから、将来を見据えた財源の確保策について検討を行います。

(7) 危機管理対応

地震や火災等の災害時に備え、館内における避難誘導マニュアルの整備や、救命講習の受講等を通じてスタッフの育成に取り組み、事故やケガ等に適切に対応できる体制を整えます。また、災害時は、1階市民ラウンジ・イベント広場については、帰宅困難者用の一時滞在スペースとなることから、受入れマニュアル等の整備を行います。

4 図書館機能に関連する施設等の今後の方向性

(1) 公民館図書室

ア 現状

現在、依知北、睦合北、小鮎、荻野、森の里、玉川、相川、睦合西、南毛利の9つの公民館にオンライン・ネットワークで結んだ図書室を設置し、本の貸出や返却、閲覧等のサービスを提供しています。また、それ以外の依知南、睦合南、緑ヶ丘、愛甲の4つの公民館と上荻野分館では、予約資料の受取・返却サービスを提供しています。

公民館図書室の開館は、次のとおりです。

公民館名	休室日	開室時間
依知北、睦合北、睦合西、 小鮎、玉川、相川、森の里	・ 中央図書館の休館日 ・ 祝日	10：00～12：30 13：30～17：00
荻野、南毛利		10：00～17：00

イ 今後の方向性

オンライン・ネットワークで結んだ図書館を整備していない地区については、今後も、同様の体制でサービスを提供することとし、公民館図書室の設置については、公民館の再整備に合わせて、必要性を検討することとします。

また、運営手法については、会計年度任用職員の配置により市が運営します。

なお、令和6年度に実施した利用者アンケートの結果を踏まえ、開室日等について見直しを行います。

(2) 移動図書館

ア 現状

現在、移動図書館車「わかあゆ号」を運行し、公園や児童館、大規模集合住宅、高齢者施設などを巡回しています。運行については、中央図書館の休館日や祝日を除く毎週火曜日から金曜日としています。

イ 今後の方向性

令和5年度の貸出冊数が約2万冊であることや、令和2年1月に更新した車両であることなどを踏まえ、今後も、巡回サービスを継続することとします。また、毎年度、巡回計画を作成し、市ホームページや広報あつぎなどで周知を行います。

なお、運営手法については、民間活力の活用を含めた効果的な手法について検討を行います。

1 成果指標

基本理念の実現に向けた管理運営の評価を行うため、代表となる成果指標を設定するほか、講座やイベントの実施に当たっては、それぞれ活動指標を設定します。

なお、具体的な指標については、本方針に基づき策定する事業計画の中で示します。

2 評価検証

図書館法に基づく図書館協議会を兼ねた附属機関を設置し、指標の達成状況や講座、イベントなどの実施状況について評価検証を行います。